

昭和三十一年九月二十五日招集(第_二号)
第三面市議會定例会之議錄

館山市議会第三回定例会会議録(第一号)

昭和三十九年九月招集

九月二十五日(金曜日)

一現在議員三十五名でその氏名次を通り

一番 吉田勇治郎 二番 鈴木正一郎

三番 小柴 孝 四番 館石伝蔵

五番 田中祿郎 六番 秋山大三郎

七番 田村源治郎 八番 望月照正

九番 安西益男 一〇番 辻田 実

一一番 石井 正 一二番 黒川佐太郎

一三番 菊井敏博 一四番 志村信作

一五番 小沢恵太郎 一六番 関 武夫

一七番 西村真次 一九番 藤田好治

二〇番 保科忠夫 二一番 江田徳太郎

二二番 若塚喜三 二三番 中村省吾

二四番 島野茂樹郎 二五番 荻生田七郎

二六番 鈴木孝 二七番 嶋田繁

二八番 山田教宇 二九番 鈴木市蔵

三〇番 安藤亀吉 三一番 安沢徳順

三二番 三沢節 三三番 高橋丈治

三四番 山本昇 三五番 松本藤太郎

三六番 山口康

一、議事日程(第一号)

議案第八十二号 寄附の收受について

議案第八十三号 昭和三十九年度館山市一般会計補正予算

(第三号)

議案第八十四号 昭和三十九年度館山市公益質屋特別会計

補正予算(第一号)

議案第八十五号

昭和三十九年度館山市国民健康保険特別会

券一

計補正予算(第一号)

議案第八十六号

昭和三十九年度館山市之畜場特別会計補

正予算(第二号)

議案第八十七号

昭和三十九年度館山市簡易水道事業特

別会計補正予算(第二号)

議案第八十八号

昭和三十九年度館山市上水道事業特別会計

補正予算(第一号)

二法第百三十一条による出席説明員

市

長

本間

謙

助

役

小出

武男

収

入

役

完

戸

責

— 官 山 市 義 会

秘書課長

小倉澄男

企画課長

谷貝茂生

庶務課長

山口実

財政課長

長谷川広治

市民課長

羽山房雄

調査課長

高木哲三

徴納課長

多田俊一

商工観光課長

小沢正治

農水産課長

伊藤幸太郎

保健衛生課長

池田亮山

衛生施設課長

吉田耕一

福祉事務所長

鶴沢貫寛

土木課長

新井重助

建築課長

高野亮三

消防署長

岩田 実

逕管書記長

大嶋 重義

診療所事務長

平柳 徳蔵

教 育 長

工藤 和平

教育委員
庶務課長

干場 伊右衛門

社会教育課長

利田 正男

一本議会の事務局長 局長補佐 書記 及び 取員

事務局 長

高梨 清一

事務局長補佐

太田 博雄

書 記

兵藤 恭一

取 員

錦織 睦子

一出席議員 三三名

一、次席議員

二名

二七番 鳴田

繁

二九番

鈴木市藏

午前一時五分開議

。議長(黒川佐太郎君)

本日の出席議員数三十名

これより才三回市議会定例会を開会いたします

本定例会の各委員説明のため本間市長

小島助役 完戸収入役 小沢課長 谷貝課長

小倉課長 山口課長 長谷川課長 高野課長

新井課長 伊藤課長 羽山課長 高木課長 多田

課長 鶴沢所長 吉田課長 池田課長 大嶋書記長

岩田署長 平柳事務長 工藤教育長 干場課長

利田課長以上の出席を求めましたので御報告

甲し上げます

五月乃至八月例日検査及び定期監査報告は両手

元に配付の通りであります

会議録署名員の決定を行ないます

本定例会の会議録署名議員に一。番議員辻田
実君、二。六番議員鈴木孝君、以上両君を指名い
たします。これに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

。議長(黒川佐太郎君)

御異議なしと認めます。よって決定いたしました。
会期の決定と行ないます。本定例会の会期につ
き議会議事協会の意見は本日から九月三日
までの六日間といたしております。

おはかりいたします。

会期を六日と定めます。ことに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

。議長(黒川佐太郎君)

御異議なしと認めます。

よつて会期は六日と決定いたしました
本日の議事はお手元に配付の日程表により行ない
ます。

日程才一議案才八十二号乃至才八十八号を一括して
議題をいたします。

議案の朗読をいたしてあります。

議案才八十二号 寄付の收受につて

議案才八十三号 昭和三十九年度館山市一般会計

補正予算(才三号)

議案才八十四号 昭和三十九年度館山市公益質屋

特別会計補正予算(才二号)

議案才八十五号 昭和三十九年度館山市国民健康保

険特別会計補正予算(才一号)

議案才八十六号 昭和三十九年度館山市と畜場特

別会計補正予算(才二号)

議案才八十七号

昭和三十九年度館山市竹筒易水道

事業特別会計補正予算(才三号)

議案才八十八号

昭和三十九年度館山市上水道事業

特別会計補正予算(才四号)

議長(黒川佐太郎君)

これより市長の提案理由の説明を述べます。

(市長登壇)

(拍手)

議長(本間謙讓君)

審議にまゝりまゝ一言であらうと申し上げます。

本日ここに才三回市議会定例会を招集いたしました。

当面する諸案件の審議をお願いすることになりました。

今回提案されたものは寄付の收受並びに補

正予算でござります。以下その概要を申し上げまして

御審議の参考に供したいと存じます

まづ寄付の收受につきましても木曾竹松ほか三十三
名より山本安布里地区農業構造改善専業に
伴う道路敷に育つるために工地寄付の申し込が
がございましてこのれを受け入れようとするものがご
ぞいます

次に補正予算がございます。が補正予算につきましても
は本年度の数財政は県下大多数の市町村と同様に
に次才に窮迫の度を高めつつあり。これの操作に目直
夜苦慮してある現状にあります。今回補正予
算計上につきましても、年間収入の見通しと検討
の上、才三才四半期の必要最限度にとどめる方
針で努め、一般財源の使用額を節減するようにな
いたしました。が、その総額は一般会計にのみ

まゝしては三千三百三十余万円、特別会計におきまして百七十余万円と相なつた次第でございます。

補正いたすおもなものといたしましては、民生費におきまして上須賀・古茂口青年館建設工事、要する費用二百三十八万円、衛生費におきまして処理場に要する費用として百四十万円、農林水産費におきましては、井田備蓄三十余万円、特別会計におきまして、角七十余万円と相なつた次第でございます。

補正いたすおもなものといたしましては、民生費におきまして、経営近代化促進対策事業補助といたしまして四百十七万円

土木費におきましては、道路改良工事、に要する費用として二百万円

消防費といたしましては、消防車及び消防指揮車

購入費といたし、まありして四百万円、教育費といたし
まして神余中學校プール付屬建物工事に要する
費用として百万円等でありませう。

これに充當する財源といたしまして、国、県等の公費
金による特定財源七百六十一万六千円、その他は一般
財源により充當しようとするものであります。

その他特別会計補正予算といたしましては、公益
宿屋ほか四件の補正のおもなものは、国民健康保険
特別会計のうち直営診療施設改正備事業に
要する費用九十万二千円、財源といたしましては、国
の支金による特定財源七十五万二千円、その他前
年度繰り越し金より充當するものでござります。
以上議案につきまして、まあめて簡単に申し上げ
ました。各議案につきまして上程の都度、関係課長

より詳細に御審議の上御賛備同くださいますようお願いを
皇ねてお願ひ申し上げらるわけでございます。

なお任期満了に伴う教育委員二名の逆任につきまして
して会期中に議案を提出したいと思ひます
のでよろしくお願ひ申し上げます。

議長(黒川佐太郎君)

以上で市長の説明を終いたしました。
続いて各議案の内容の説明をおめします。

農林水産課長(伊藤幸太郎君)

議案 八十二号につきまして申し上げます。

本件は山本安布里の農業構造改善事業で

ございます。けれども内容を一応申し上げて見たい

と思ひますが、御承知の国道百二十号線が直線化

と幅幅が決定されてあるそうでございまして、これ

に併いますといひますのは、今度行ないますところの区画整理によります排水の問題がこの側溝に通ずるわけでございますので、今回の議案^案としてお願いいたすわけでありませう。

国道工事としての側溝の設計だけでは今申し上げました区画整理後の排水の問題が解決されないといふことをございますのが、特別に側溝工事を区画整理後の排水路に適合する側溝工事としてやってほしいといふ申し入れをしたわけでございます。

いろいろ県等の折衝の結果、それでは国道にそうところの側溝工事は今申し上げました排水路に適合する工事をいたそうといふことで県の方の解を得たわけでございます。しかしながら、そういたしま

すると国道工事の側溝としてではなく、県の単独事業としてこの側溝工事を行なうということでございますので、当然それに伴いますところの地元負担金の問題が出て参ったわけでございます。いろいろ折衝いたしました。それでは工事をいたします。ついでに地元関係地主さんにお願いたしまして敷地として提供しようというふうな話が多まりました。一応市の方にここにございます。六反あまりの土地を提供をお願いすることになったわけでございます。

もっと申し上げますと、一人受け入れました道路敷の土地は、今度の県単工事に要します。地元負担金と買収費を県が、あすかわりにその買収費は一応市に入れます。市はそのまま、分相金として県の方に納めるといふようなことで、よく話が決定された。

わけでございます。ちよつとややこしいようでございます。が簡単に申し上げますと地元分担金の分としてこの関係地を工んから市が一たん土地の提供を受け入れまして市は県にそれを買収していただましてその買収金を地元分担金として市に納入するとうようなことで話しが決定されました。特別の側溝工事とこれによって本年度やっていただくことに決定されたのでございます。が各関係地を工んの了解を得まして道路敷地として御寄付をお願いすることになったのがございます。のぞよろしくお願いしたいと思ひます。

。財政課長(長谷川 広治君)

一般会計補正予算案オ三番について御説明申し上げます。お手元に配付してあります。事項別明細書と御参考にお願ひしたいと思ひます。

一般会計才三回目でございます。今回三千三百三十三万三千円をそれぞれ追加いたしました。予算総額は七億百九十万三千円といたしました。このことでございます。以下歳末から申し上げます。

議会費におきまして二千八万五千円を追加いたしました。このうちら需用費の八万五千円は予算編成の目的別支出というような点から含んでおらなかったものを年間の見通しを付下しましてそれぞれ八万五千円を計上したものでございます。

二款の総務費のうちら財政関係で御説明いたしております。総務管理費として四百一十八千円追加をいたしました。ありますが、財政政策課関係は役務費十一万三千円、自動車災害保険料が本年の四月から増額されました。ための不足額でございます。

工事請負費三十一万四千、これは当初冬の期間ボー
ラーと石炭でやるおたわけでございませうがそれを重
油に切りかえるという事で八十万計上いたしまして
議決をいただいたわけがございませう。見積りを取
りますと百万ばかりになるのでその不足額三十一万
それから十数万ばかりは庁舎の敷地内に街灯を
設けたい。こう考えまして、その経費が六万。その他のこま
ごました修理工費等がございませう。

財産管理費として旅費三万二千円これは、当初才二
義的と申しませうか。

考えてみれば旅費等をあまり組んでおらんかたのが
ございませうが四月の行政改革によりまして市有地
の完全確認をいたして参りたいということを取員
の測量等の旅費あるいは立ち会い等の旅費三万二千

円を計上したものでござります。

秘書課長（小倉澄男君）

統括として十九節負担金の甲でござります。

千葉地裁裁判所と検察庁館山支部並びに裁判所の合同庁舎を促進しようという地元、安房郡の市町村で声が起こりまして先般五月一日に建設の合同庁舎の期成同盟会というものを作りましてそれによりまして各市町村より百二十万円の資金を捻出したしましてそうして合同庁舎の促進を努めるといふことになりましてたんですがその負担金といたしまして、各市が三十四万九百円に該該当する次でござります。その算出方法は平等割りとして人口割り、それにより算出した額でござります。その木更津裁判所新築負担金、これは木更津

の裁判所検査庁がやはり先般新築されたのでござい
ます。が木更津は甲種裁判所と申しまして管轄に安
房郡市も入るといふことが寄付員担金と願わした
いといふこととここに三万四千三百円を計上した次オで
ございます。鴨川合同庁舎建設員担金これはこの
たび鴨川地区におままする。県の先機関が非常に
方々に散在してありますので一諾にして合同庁舎を
建設して市町村の事務の指導に当りたいといふ
こととございますので当市といたしましても五万円
おつき合いたた次オであります。

全国基地協議会員担金一万円当初に漏れてあり
ましたので追加した次オでございます。

国際親善都市連盟員担金一万円

館山木更津電化促進員担金これは先般から

新聞紙上等で御承知と思っておりますが、房総西線の館
 山子等の電化促進をしようということでもここに負担
 金として五万円計上した次第でございませう。

その他事務研修会負担金三万円これは取組員の事
 務研修につけて今後ありますやうな事だといふこと
 とで追加計上した次第でございませう。

全園市長会負担金九千円これは当初予算編
 成後に通知が参りました関係で九千円ばかり不
 足いたしましたので、ここにお願いたしました次第でございませう。
 次に事務改善雑進費でございませうが、これは需用
 費で十八万二千円、これは事務改善上のいろいろな新
 しきカード類に使います。ホルダーとか消耗品が
 十八万二千円でございませう。

委託料の更正でございませうが、これは当初遅くとも

本年度の九月頃からエスターの作働を計画いたして
おりました。が事務上の手続上によりまして、どうしても
十月にならぬないとエスターが動くまでの準備がととのわ
ないということ。で選挙人名簿の作成が間に合わない
ということ。で土万七千円を更正いたしまして、そうして
選挙人名簿の作成の費用の方に追^加作をする財源
に充^充てたわけでございます。

備品費でございますが、これも事務改善により、ます
諸備品を先般の議会において御承認いただまして、
購入したのでございまして、その後諸カード等枚数が
多かったのでキャビネット類につきまして不足を生じ
ましたのでここに追加計上していただまして、
合計六十八万五千円を補正予算に追加計上した
次第でございます。

庶務課長（山口実君）

二目文書日広報費についで御説明申し上げます。

今回二十五万追加いたしました。これは郵便料のごごい
まして当初四十万の計上いたしました。が現在月平均
五万円から六万円程度かかっている状態です。それの不足
分を見込めまして二十五万円を計上いたしました。
統計調査費についで申し上げます。

今回三十三万四千円追加とお願いたしました。みも
なものは、農業センサス全国消費実態調査、商業
統計調査。これらの調査員の報酬のごごいあります。

全国消費者実態調査の八節の報償のごごいあります。が
これは世帯調査の対象となる対象家庭が各家庭
において家計簿を付けるわけのごごいあります。その費用
といたしまして対象家庭に配付する報償費三万七千円

以上でございませう

○企画課長（谷貝茂生君）

総務管理費の六目企画費について申し上げます

今日八万円の追加をいたしました。市民相談室等と四月から始まり、まもなくで一年間の旅費といたしまして市内出張等の旅費といたしまして八万円

○調査課長（高木哲三君）

二項徴税費一目税務総務費について三十三万三千円を願いました。これは報酬で五万円、家屋評価補助員報酬でございませう。

燃料費四万六千円。これは三月までのガソリン代でございませう。

備品購入費二十三万七千円。これはホールソートキャビネットを購入していただきましたと思っております。計上したわけでござい

ます

・収納課長(多田俊一君)

二月の賦課徴収費についで御説明申し上げます
今回の追加は八節の報償費でござります。

これは納期前納付の不足分でござります。が当初
予算に二十万計上いたしましたが八月三十日現在
におきまして十九万六千円までおります。が今回
九月から一月までの不足といたしまして十万円位で
はないかというところで今回追加を希望したいという
ものでござります。

・運営書記長(大嶋重義君)

四項の選挙費についで御説明いたします。

今回十五万五千円の補正とお願するのござります。が
その内訳は選挙管理委員会費にありまして一万

七千円の追加これは先ほど秘書課長より説明
がありまして理由によりまして基本選挙人名簿
を従来の方法によつて調教正するための経費でござい
ます。その経費は九節の旅費で七万五千円、実施調
査のための取組員の市内出張旅費でござい
ます。十節の需用費五千円、役務費の三万七千円は名簿
調整に要する経費で説明欄の通りでござい
ます。

三目の漁業調整委員選挙費におきまして五千
円の更正でございまして当初予算を六万六千円計上
いたしましてところが選挙が終りまして県から七千
千円の委託料の交付決定の通知が参りましたの
でこれに基きまして追加更正をお願いする次第で
ございましてなお海区の選挙費につきましては金額
県の委託料でまかなうておりますので御了承願いた

いと思っております。

福祉事務所長(鶴沢貞寛君)

民生費につきまして御説明いたします。

一、目社会福祉費にあつては八万円の追加をお願いいたしております。

十三節の委託料五万円これは忠霊塔の管理委託料として計上いたしました。がただいままで忠霊塔の清掃等はすべて遺族会におまかせしてあつたのであります。すがその費用も遺族会の方でおまかせなつておつたのでございませう。が忠霊塔の管理は市が当然やるべきであるという見解で今回五万円計上いたしました。まして遺族会に清掃の花とあげるとかそういうものを委託しようということ。ことで五万円計上したわけがございませう。

十九節の負担金補助及び交付金で米之人会に

二万四原爆被災者同盟会に五万円これは当初予算に計
入すべしでございましてが落ちておりましたので今回計
上をしたというものでございまして児童福祉費にあり
まして三百七十五万円の追加でございましてこれは本市に
青少年相談員というものが県知事の委嘱と市長の委
嘱で活動しております。

県におきましては相談員一人千五百円程度の費用を計
上いたしましたので今回市におきましても十万円を計上
いたしました相談員の活動に育てようというもので
ございます。

児童福祉施設費におきましては員金で六万九千円
これは給食の臨時用入がおりますがこれが四月に本採用
になる予定であったのでございましていろいろの事情で
七月に延びましたのでその不足分三カ月分を計上いたし

たものでございませう

食料費十八万二千円これは保育園の月食費でございませう。昨年は三万でございませうが今年から五月に増額されました。ための不足分園舎修繕料二万円これは先般船形保育園の隣りの安田木工所が火災にありました。ためにその余波を受けましてための修繕料工事請負費三百三十八万円これは上須賀、古茂口に青年館建設工事費として上須賀百七十四万円、古茂口が百五十万円、建築評教三十万、評会議室、娯楽室、管理室等と備え付けたいものを建設しようというものでございませう。この財源をいたしまして県で五千万円、市で五千万円、その不足分を地元で持つてもらったわけにございませう。

純真保育園の修繕工事費十万円にございませうが、当初予算に二十七万円組みました。が二十七万円がほとんど

屋根のふきかえ工事に充当されましたために今回不足分二
万円をお願いしたわけですがございませう。あとの四万円は九
皇保育園の井戸が壊いために夏に水がかれて使用でき
ませんのでこれを補修しようというために四万円を計上
いたしました。

保健衛生課長（池田亮山君）

才四款衛生費一項保健衛生費のうち保健衛生総務
費について御説明申し上げませう。五丁二万六千円の追
加でございませう。バニウラの十七万六千円について御
説明申し上げませう。

需用費におきまして五千円の追加でございませう。委
託料の七万一千円これは従来がご相談に因ることは
果で行なっておりましたものが今回の法律改正にお
きまして市町村におき行なうことに改正されまし

たことによります追加でございます

次に十九節の負担金補助及び交付金でございますが、これ
もガンの委託に伴います。千葉県のがん対策協議会
の負担金の三万円、館山保健所の後援会負担金
七万円、保健所の自動車の購入に付する今年度
の特別負担金でございます

千葉県のがん協会でございますが、ガンに付する診
断等のすべての連絡調査を行なうおる機関でござ
います。その負担金三万円、次にオ二目の予防
費の十万円の追加でございます。これは当初予算におき
まして策定せられました。防疫用のエングラムの追
加でございます

次の環境衛生費の賃金でございますが、これもエングラム
スターに伴います。ところの防疫用の人夫の賃金と

・衛生施設課長(吉田耕一君)

りあえず四万五千円追加いたしました次才であります

統括として保健衛生総務費の千五節工事請負費に
おきまして三十五万円の追加をお願いしようというもので
ございます。火葬場の待合所が現在普通住宅的にで
きておるわけでございます。大体お客さんが上つて待つておる
というような機会が少いというような観点をお合せまし
て火葬場の住宅が老朽化して雨漏りもひどくかつ
六畳一間というような状況でございます。現在待合所
を火葬場の住宅に切りかえまして靴のまま入れるよう
な待合所を建設したい。このように考えておるわけ
でございます。合おせまして現在使っておりませう待合
所を住宅にいたしまして^ほすのぐさやサウの補修工事をいた
したい。このように考えまして現在でございます。予算に

不足を生じますので、今自三十五万円をお願いしようといふものがございます。次の環境衛生費のうち繰り込み金でございますが、これは特別会計のと畜場会計に繰り込みをお願いしたいといふことでございまして、次の清掃費でございまして、工節の需用費におきまして、清掃審議会というものがございまして、現在まだ一回も開いておられないわけでございますが、今後いろいろ清掃関係の重要部門を御審議、御検討願うという観点から、いたしまして、ここに三カニ千円程度の食料費を、お願いしたい。このように考え、わけでございます。次に塵じんか処理費、賃金でございまして、四、二万円、人夫の増員と合わせて、賃金の値上げというふうなものによりまして、賃金にこの程度の不足を生ずるような観点から、お願いしようといふものでございます。

九節の旅費でございませう。今後考えられております。じんかいの焼却炉^場あついは現在実施中でござります。尿処理場等の規^規則、私員^員の他の状況視察等を考慮されました。私員の研修等と多く行なう。いまたいこのように考えて不足額を計上させていた。だぶだぶでございます。次の工事請負費でございませう。昭和橋のところはゴミを捨てております。これが伴います。整地あるいは車の止まらないような割り切り。砂利というふうなもの敷きまわす。前進させるというふうなことからこの仕事をお願いしようというものでございませう。

原材料費等におまわす。これはゴミ捨て場、道路の補修的。な面での程度をお願いしようというものでございませう。三十二節の補償及び賠償金でございませう。昭和橋のところに捨ててあるわけ。でございませう。でございませう。焼却^場と

しながら埋めてあるわけでございますがたまたま川崎
吧成の田に近い方でゴミが燃えまして大体三十坪程
度の楕に被害を与えたわけでございます。いろいろ
技術者の検討もいただきました。できるだけの補償と
してまいりたい。このように考えまして今回この程度計上
させていただいたわけでございます。

次にし尿処理費でございますが旅費が不足額四万六
千円とお願ひし必要費にまますして百九万六千円と
お願ひしようというわけでございます。電気料にお
まますして百四十万これは当初にまますして算定の仕方
と後よりまますして結局不足額とまますするということご
お願ひしたいと思っております。

食料費等にまますして不足額八万円というた面と三
十二万二千円と燃料費から補はまますして進めようとい

このようにお願ひするわけでございますが、委託料でございますが、まずが使用料及び貸借料、両面につきまして三千二万円、四し尿の捨て場管理委託料でございます。これは神戸の地域にございます。砂防組合に一切の管理委託を従来いたしております。なお本年度は願ひしなればならぬというふうに考えております。

このし尿の捨て場の借り上げ料でございますが、大石の個人の所有地でこれにバキューム一台につき百円程度を借料として支払ひしております。この本年度もこの程度は願ひしまして支払ひをしてまいりたいと考えるわけでございます。

四項の上水道費でございますが、これにつきまして七十万六千円を繰り出し、お願ひしようというものをございまして上水道につきまして三千八万円、簡易水道会計に

おまじまじと三十三万六千円合おせまして七十一万六千
円繰りあしと願いして特別会計の運営をほか
つて参りたいと思ひます。

議長(黒川佐太郎君)

暫時休憩いたします。

午前十一時一分

休憩

午前十一時十七分

再開

議長(黒川佐太郎君)

休憩前に引き続き会議を開きます。

農林水産課長(伊藤幸太郎君)

六款の農林水産費について甲し上げます。

一頁農業費のうち二頁農業総務費でございますが

十四万円が増額これは今回農業構造改善の事務費補助
助といたしまして県の方から十五万七千円の補助金が
確定いたしましたのでそれも財源いたしまして各節
の不足額をここに計上させていたいただきました。

三日の農業振興費でございましてこの内容につきましては
従来いちごの採種園の委託料ということに従来
あったわけがございましてが今回この補助規定がなくな
りましてかわりに次にございまして共同育床センター
設置補助というものに切りかわったわけがございまして
その線にそいまして当初予算にあきまして十万円
の委託料を計上してあります。たものと削りすく
新しくいろいろ共同育床センター設置補助として
三十万二千円をここに計上いたしたわけがござい
ます。そのうち半額の十五万六千円が県の方で補

助金として確定してあるわけでございます。育床
センターの村象面積はらごの育床助成として去
町寺の村象として追加額が決定してあります。

それから農協合併促進事業補助金でございます。
すが今回県等では合併事業の補助をいたしまして
三十二万円の補助額が決定されましてそれに伴い
ます市町村側でも同額の助成金を組むように
というひもつきでございます。三十二万の補助をいたし
まして四十二万円の補助助成を計上いたしたわけござ
います。

林業費でございますが三万円の増額これは県の方で
保安林の保護委員会と各市町村で設けるようにという
ことにござります。本市にありても一名保護委員の
任命をするわけでございます。保護委員の事業に村

しまして一応委託料として三万円を計上いたすこ
とになります。この三万円の財源といたしましては、県
の方から同額のものが出される予定でございます。
水産業費でございますが、六百四十二万九千円の増
額。その内審訳といたしまして十九節の負担金補
助及び交付金。これは当初予算にありまして漁業
構造改善等の事業の見積りとして計上いたし
たわけでございますが、その後県の査定にありましてある
程度の増減がここに生じましたので、それに従います。減額
をいたしたいというわけでございます。

な。その次に近代化促進対策事業費の補助の四百七十万
の追加でございます。これもこれは船舶港におきまして今回
船の引き揚げ施設が県の事業として認可されまして、当
初予算に計上されておりました。今分でございます。今回

新たに四百七十万円の追加をお願いしたいというものを
ごぞいます。そのうち三百六十万九千円が県の方からの
補助金として決定しておりますのでこの財源を元
にいたしました。四百七十万円の補助を計上したいとい
うことをごぞいます。

ニテ三節の補償金をごぞいますがこれはかねて御承知
と思ひますが海員学校の敷地内には旧軍甲施設に入
っております。十四世帯ござうてございます。その
方たちの立ちのまにつまましての補償金をごぞいます。
九世帯を残しました。あとの方々につまましてはすぐに
立ちのまが決定してあります。けれども九世帯につまま
しては市のまも入りで国の住宅金融公庫から資金を
借りましてそれを元にして各人の適当な敷地
を見つけてましてそこに建てて移るといふことをごぞ

方でいろいろあるせんいたしました結果九世帯につま
ましても一応公庫資金の見通しが確定いたしまし
た。その際に布といたしまし、補償金云々の問題でそ
れぞれ折衝しておつたところでございまして、その額が（世帯
三千九百八千円）ということで両者話し合ひがついておるわけ
でございましてありますので公庫の確定を見ましたくが
約束三千九百八千円の補償金と九世帯分今回互い
たしたいというところで計上いたしたわけでございまして
次の漁港管理費、漁港建設費、それぞれ更正いたし
たものでございまして、以上でございまして。

・商工観光課長（小沢正治君）

オセ款商工費について御説明申し上げます。商工費に
つゞ追加十五万七千円、二月の商工振興費の委託料
五万円は説明にございまして、商工祭の委託料の追加

でございませう

観光費十八万七千円九節の旅費七万二千円これは昨年
度後半の普通旅費の不足見込み額でございませう

土節需用費二十三万五千円内容といましては

食料費二万円消耗品十三万五千円減額更正いたし

まゝでパンフレットの三十五万の財源に充ちたいとい

かでございませう。またパンフレットの三十五万は、最近ハ

ンフレットの三十五万は、これも最近パンフレットの~~量~~が非常

に増加いたしまして、ほゞとほゞと会議で大勢集まる場合に

はこれが要求されるような状態でありまして、この際や

はりしむりしたものを作つて宣伝に努力いたして、考

りたいといふ考えから、今般約單方同程度のもの

作りたい数量は二万部と予定してあるわけであり

ませう

次に委託料で四万と九万の減額更正でございしますが
夏の海水浴場客の対策といたしまして日赤の
千葉県支部の派遣巡遣を予定いたしました折
衝したりでございしますが日赤の方の事情からどう
しても出向かれないということで四万円不要になつたも
のと監視船の委託が三十九万円予定いたしましたか
私どもの方で計画いたしました船よりも入まらさ
若干下回つた関係でそこまで使用せずに済ませ
て残額を生じましたのでこれを更正したわけでご
ざいます次の工事請負費において二万円の減額を監視
船の機内取り付け工事で一万円予定したんですが
それを使用せずに済んだわけでございます
備品購入費において拡声器の七万、双眼鏡の三万円こ
れもそれぞれ予定額だけ使用せずに済みましたので

この際更正いたしましたしましてパンフレットの財源に充当したいと
いうものでございいます

十九節の五万円でございますが本年も新阿国花火大
会をいたしまして横須賀市と富津の対岸で花火
大会を実施いたしましたわけでございますが県の観光協
会と富津町の主催で県下の全市町村に後援を呼びか
けまして相談があたりでございますが要料が約六
万二千円の割り当てでございますが一応地元との話し
合いで五万円です了解を得ておりますのでここで追加
をお願いする次才でございます

エ木課長(新井重助君)

八款エ木費について御説明申し上げます

一目の道路橋梁梁総務費にのさまして旅費の十方
の追加自動車運転手に旅費を払うということにな

いたしましたので三月末までにはこれ位必要ではないかと
思いまして計上いたしました。道路が相当痛みまし
て方々から砂利の要求が非常に多かったです。ことで
八月三十一日から六千六百立方メートルの砂利と碎石が使
用されております。現在百万円程度の予算残額がご
ざいます。なおこれから相当の量が必要ではないかと、こ
こで二百二十万円の追加をお願いいたしました。道路維持
の万全をはかりたいと思っております。計上した及才でござい
ます。

消防署長(岩田実君)

才九歳款消防費について御説明申し上げてます。
常備消防費でございまして五十一万円の補正をお願いす
る及才であり、九節の旅費取員の研修その他で
年度末まで不足が予想され、二十五万円の追加を

お願いする次才であります

十節の交際費これは当初三万円を計上したのが
ございまして起債補助金の獲得その他におままし
て従来は市長交際費より支出しておったこともあ
ります。が取務の逆行上昨年度と同様五万円をお
願いする次才でございまして

十一節需用費燃料費ガソリン代当初燃料費は
布の方で一括して予算上に計上というふうな周王及ん
であつたために消防関係では計上しなかつたのでござい
ます。議決後それがないという事で今回三十一万円追
加する次才でございまして

十二節の役務費でございまして今年四月より保険料
率が大幅に改定になりましたために四万円の追加を
お願いする次才であります。二目の非常備消防でござ

でございますが三十五万七千円の補正とお願しいたし
ました。これは十一節の需用費はほとんど先ほどの燃料費と同
様の理田でございます。

十二節の役務費も同じでございます。

三月の消防施設費でございます。四百四十五万円、補正
これは十五節の工事請負費をいたしまして四千五百円
これは当初訂上いたしませんでした。有蓋貯水槽一個
を建設する費用でございます。

十八節備品購入費。これは消防団の中型消防車ニ台
これはオ三八分団オハ都神明町でございます。現在三
輪消防車でございます。でございますが非常に老朽してありまして
ほとんど使用に耐えない状態でございます。現在車検
も受けておられない状態でございます。この代いがえと
いたしまして二車なおオハ八分団ニ十三部百歳口で

ございますがこれまた手びきガソリンで三十四年と経過してあります使用に耐えない状態でございますので同じく中型の消防車を購入していただきたいと思います
います

なお指揮車でございしますがこれは連続車輸送車をかゝる車でございましてこれから予防業務その他で使用度が多くなるわけでこれを一台購入していただきたいと思っております以上

庶務課長(干場伊右エ内君)

教育費について御説明申し上げます

教育費におきましては五百七十七万三千円の内補正で

ございますがその内訳としまして教育統務費の中の

委員会費十八節備品購入費でございしますが三万

円計上いたしましたこれは教育委員の会議の場合に

全部庁内にある椅子を使ってやってやったのでござい
ますが委員甲の椅子といたしまして一個七千五百円四
人分として三万円お願いした次才でございいます
二目事務局費二十四万一千円でございいますが九節旅費
六万七千円内訳は五万円普通旅費一万七千円は学校
医の研修旅費でございまして今度千葉県教育委員
会が行なわれましたしてそれに学校医が三十四名ありま
すがその半分十七名の研修旅費でございいます
十九節負担金補助及び交付金でございいますが教
育図書採択協議会負担金二千四百円これは今まで
教科書採択委員がおりましてそれに報償金を申し
てやっておいたのでございいますが今回出張所単位に協
議会が設けられましたしてその負担金といたしまして二千
四百円をお願いした次才であります

次に道徳教育選推進助成補助金四万一千円今度道徳教育に關して特に推進しなければならぬということを出張所の指導室にその推進母体がござましてその負担金として四万一千円でございます

次は安房教育研究所運営補助金三万円これは安房郡市の教育研究所が教育会館内に設けられておりますが今まで安房郡だけが出しておつて市は出しておらないで市は独自で研究所を持つというところで考えておつたんですが今年度どうしてもできなくなりまして館山市といにしまして補助金を出して発言権を強くするという含みを持ちまして三万円をお願いする次でございます県中学校の体育大会の選手派遣補助金でございますがこれは県中学校の体育大会が行なわれるのであります

それがそれに館山市

の中学校から選考を巡遣する費用でございまして
十万円を補助しようというものでございします

二項小学校費で四十九万九千円の追加でございまして
込訳は八節の報償費一万五千円それを十一節の需用費
一万円合わせて二万五千円これは北条小学校の特殊教育
研究会の報償費と需要費でございしますがこれは県
の補助が二万円ありましてあとは市から支出するという
ことでもございします

それから次の十一節の中に五万円北条小学校の全国
研究会資料及び印刷代とありますすがこれは十一月
二十日、二十一日に行なわれます学校経営の全国合同研究
会が北条小学校で行なわれますその際の印刷代等
でございします

十八節の備品購入費四十一万円でございしますがこれ

は今回理科教育の設備関係の国庫補助会とい
 たしまして三十三万円西崎神余九皇各八万豊房
 小学校が九万円の補助が決定いたしましたのでその
 倍額の支出ということになりましたまして六十六万支出し
 なければならぬんですが手持ちが二十五万ありました
 のでその差額四十二万円をお願いした次才でございます
 ます

次は三ヶ節の援助十一万七千円学用品援助八万五千円
 修学旅行援助二万九千円の追加をお願いした次才でござ
 います学校建設費で二十九万七千円の減でございます
 がこれは委託料の更正がございましてしたので減ったわけ
 でございいます内訳と申し上げますと九ヶ節旅費一万八

千円神戸小学校の建設に伴う旅費一万三千円委
 託料の方に回りましたのでそれを更正いたしました

五十一万五千円の減ということでございます

次は十五節の工事請負費でございますが二十万円のうち船形小学校の給水工事これは給水貯水槽と寄付していただいたんです。貯水槽とやぐらの上にのっけたままでその後の施設が放置されておるのでございましてせっかく寄付してもらったものともそのまま捨ててあるということももったいない話でございます。これを今度使用いたしました。給水施設をした。こういうことでございします。それから富崎小学校の倉庫でございますがこれは講堂を作るとき倉庫を取り除いてそのままになっておったのでございしますがその新設工事でございます

三項中学校費二百六十九万四千円の補正でございます

すが十八節の設備費の九十万円でございませう。これは国庫補助で三十万であります。房南豊房四中三校十万円ずつ補助が参ります。が技術家庭の場合には三分の一の補助ということですが、その三倍九十万円をお願いした次でございませう。理科教育の設備費といたしまして五万円でございます。これは二中の補助が十四万七千円決定いたしました。して三十万円支出することになります。すがそのうち手持りが二十五万円ございませうので五万円追加をお願いした次でございませう。

二十節の補助費二十六万九千円。これは準要保護関係のさつき申し上げましたように値上げにより単価の引き上げでございませう。

次に三目学校建設費でございませう。その九節の旅費五千円は四中の建設費に伴う市内出張旅費でござい

ます

十三節委託料四十三万七千円は四中の体育館設
計委託料三十六万四千円敷地の地負調査の委託料
十三万円

次は十五節工事請負費で神余中学校プールと本体
は当初予算でお願ひしたのでございませうが付属建
物といふことで工事請負費といひまして、百万円計
上した次オでございませう

四項の高等学校費で百六万円と補正いたしました
がその内訳は十八節の備品購入費四十五万円理科
教育の設備費といひまして三十一万円これは国庫
補助が十五万円でございますのでその倍額の三十六
円をお願ひしました。産業教育の設備費十五万円
でございます。これは国庫補助が五万円ありまして三分

一の補助でございませぬので、三倍の十五万円とお願い
いたしました。これは家庭料関係でございませぬ。

次は学校建設費九節旅費一万円でございませぬが
これは館高工業課程の新設工事に伴う専務に
関係の補助の旅費でございませぬ。十五節工事請
負費六万円これは校庭の側溝工事等の請負費
でございませぬ。

次に五項の幼稚園費で六十七万一千円の補正でござ
いませぬがその内容訳は七節賃金十七万一千円北条
幼稚園の学級増に伴うところの臨時取員の賃金
でございませぬ。八節の報償費三万五千円研究会講
師謝礼七節需用費の印刷製本費一万五千円この
二つ合わせましてさつき申しあげました北条小学校の
全国合同研究会の幼稚園関係の費用でござい

ますそれから幼稚園舎の修繕料として四十五万計上してあります。館山幼稚園、富崎幼稚園の取資室の補修とかそういう関係の修繕料とお願ひいたしました。社会教育課長(利田正男君)

大項の社会教育費につきましては三千万の補正を行ないました。社会教之月統務費更正二百四十八万三千円でございます。これがこれは八節報償費に県及び全国青年会等加報償費というのを七万円計上してございましてこの支出区分が適当でないといふことでございましてこのこちらから七万円減じまして九節の旅費の七万円といたしました。たわけでございます。

二目の公民館費十一節需要費用費が館野分館が六千円ほどの修理を必要といたしますので十一節の工事請負費の中でそれに見合う余裕が生じましたので

これを~~統~~てたいということでございます。

盲図書館費三十万円、図書購入費に~~統~~てたい
だまたい、保険体育費、補正額三十五万八千円その
内容は十一節の需用費プールの水道料、特別会計
になりましたので今までただで使用していた
いておたのでございます。これを水道料として三回
にわたって六万三千円を使用いたしておりますので十
五万八千円を計上しております。

十五節工事請負費三十万円はプールのさくが従前ご
ざいません

シブソフになると小さい子供が遊びに参りますので
だれもここにありませんで監視一人一人では不安を覚え
ますので全長百メートル高さ百五十鉄柱を建てま
して十三番線で作る。こういう計画のございます。

以上です

財政課長（長谷川 広治君）

以上で歳出の説明と終りますすが総額で三千三百三十一万三千円となります

次に歳入に務ります

歳入におきましては特定財源が約千九十一万六千二百六十円ありますのでこれを差し引きますして二千二百六十三万五千円と一般財政源へあおいだわけでございますいます。そのうち市税といたしまして市民税で六百八十二万一千円これは現在調定額が約五千五百三十万ばかりでございますのでその徴収率九六・二%をおさえますして差額六百八十二万一千円と一般財源として今度の歳出の財源に充てた次でございませう。固定資産税におきまして現在の調定額が九

千四百九十万ばかりございますのでこれの収納率一
 と大体九十三というふうにおさえましてその差額二
 百五十万追加一般財源として計上いたしました。たばこ
 消費税として大体现在の調定見込みが四千三百五十
 万ばかりございますが後率があまり人もこない消費
 されない月でございますので総額の半額程度と見ま
 して二百十三万八千内程度を今回の追加財源として
 計上いたしましたわけでもございませぬ以上増額で千百
 四十四万九千内ということに相なりまゝです

三款の地先方交付税は現在の仮決定が一億七千
 十一万八千内という決定を受けておりますが、人事院
 勧告によります給与の改定あるいはその他の改
 定がまだ正式にきまつておりませんので補正前の計
 上額を考えまして今回約一千万円と計上いたしまし

て仮決定はあと七百六十万ばかり残っておるとい
ことでございませうが次の追加財源として保留をいたしま
して今回一千万円を追加いたしましたして総額一億六千
二百五十五万円というふうにいたしましたいかように考えま
す使用料として百十七万六千円を計上いたしました
がこれは幼稚園の保育料の八月一か月分の増額と当
初予算の積算基礎定員よりオーバーをした人員
が保育されておりますのでその差額を合わせまして
百十七万六千円を追加計上いたしましたわけでございます
六款の国庫支出金におきまして負担金補助金二十七
万九千円計上いたしましたこれは歳出で御説明
申し上げましたものでございませう県の支出金とい
しまして負担金補助金委託金この三つで五百八十
三万七千円を計上いたしましたこれも歳出で説明

があったと思ひますが大きなものは医療補助の改定
 そういふものでございます。寄付金三百八万二千円と
 計上いたしました。これは青年館の建設に伴う
 消防団の消防車購入に伴う各地元からの寄付
 金市債百五十万追加計上いたしました。これは消防
 関係の市債が百五十万当初予算よりも多くもらえ
 るといふようなことがほぼ内定といたしましたので
 この額を計上いたしました以上が三千三百三十二万三千
 円といふことに相なります。

オニ表として今申し上げました消防債の補正
 とかかげてございますが消防設備の限度額が百五
 十万程度増といふことになり今までは二百万でござい
 ましたけれども三百五十万という回答を得ました。予
 算総額は歳入歳出とも七億九千九百三十九万三千円といふこ

とに相なります以上でございませう

福祉事務所長(鶴沢貫覚君)

特別会計公益貨屋でございませうが総務管理費にら
ましまして一万円を計上いたしました。これは私員の退取手
当組合の負担金当初予算に落しましたので今日
計上したわけでございます。これは本俸の十分の七で
ございませう。これを予備費から更正しております。

保険衛生課長(池田亮山君)

特別会計(公米)特別会計国民健康保険について申
上げます。今回追加額九十三万八千円でございます。
事業勘定におまして十八万七千円。直診勘定におま
まして七十五万一千円の追加更正でございませう。

事業勘定(公米)の内容につきましては明細書

で御説明申し上げます。

まず事業勘定の歳出オニ款保険給付費の育児
 手当金の追加でございいます。この追加は本年度当初
 条例改正が行なわれまして育児手当金を届出と同
 時に支給することに変更したわけでございます。

六ヵ月後に支給しておりましたものが六ヵ月繰り上りて
 支給の形になったわけでございます。それに伴う不足額十八万七
 千円でございいます。これが財源といたしまして前年度
 繰り越し金と十八万七千円計上してございいます。

次に直診勘定について御説明申し上げます。直診勘
 定は今回の追加はすべて施設と増築をしようとする
 ものに要するものでございいます。

当初予算におきまして申し上げました通り当初の
 計画は一部模様替えがえ一部新築の計画でいろいろ起債
 国庫補助金等の新入債と統けてきたわけでございます。

すが一部模様かえの部分につきまして国庫補助金並びに起債の承認が得られないという面がございましてそれから新築部分につきましても評教その他の工事が小さな関係で補助金がごく少額というふうな関係でこれと全部新築に計画変更をしたわけがございまして

これに伴いまして国庫補助金の増額等によりまして予算補正としておりますが歳出が一款総務費の一万二千円の追加でございましてこれは直診協会の補助事業を本年度に行ないますところの市町村に対して特別負担金でございまして

この財源といたしましては六款の予備費の一万二千円の更正によりましてこれを見たわけがございましてオ三款の施設整備費でございまして先ほど申し上げましたように計画の変更によりまして事業の増となる

ものが九十万二千円の増となるのでございませう。しかしこのうちで設計監督委託料と十五万更正いたします。

次に七十五万二千円の国庫支出金の増を見込みまして追加となるわけでもございませう。

次に歳入で申し上げます。七十五万二千円の国庫支出金の追加でもございませう。これは当初四十万円を見込んでおりましたものが百三十五万二千円の内定を受けましたのでここに計上したわけでもございませう。以上でもございませう。

・衛生施設課長(吉田新一君)

次に議案オ八十六号につきまして御説明申し上げませう。と畜場の特別会計でもございませうが今回も願いしようとするものは十四節の使用料及び賃借料で

ございませうと畜場の用地は借り上げておるわけでも
ございませんがもう数年前から値上げの要請があつた
わけでございますが関係でそのままになつておるわけで
ございませう。今回^新耕作物の等の関係も勘案いたしまし
て適正な地代というふうには考えまして不足額九千
円をここにお願いしようというものでございませう
次の十五節工事請負費でございませうと場の用水ボ
ンプでございませうが用水圧カポンプの設備をいたし
まして水不足を補うというものでございませう。ホ
ンと並びに既電工事合わせて九万二千円程度の追
加をお願いするものでございませう。

歳出の合計が十万円でございますがこの財源は一般
会計から繰り入れをお願いしようというものでござい
ませう。この財源は一般会計から繰り入れを

歳入歳出とも総額二百三十三万四千円といたしたいと考
える次才でございませう次に議案オハ十七号簡易水道
特別会計につきまして御説明申し上げませう

歳出につきまして総務費旅費で一万五千円めと半
年あまりの不足額とお願いしようものでござい
ます

次の水道管理費でございませうが十五節工事請負費に
つきまして三十三万二千円をお願いするものでございませう
内容といたしましては鋭切の簡易水道でございませうが
配管工事完了後におきまして新宿学校ができた
わけでございませう。どうしても一部大体八十メートル
程度の付けかえをしなければならぬというこことに
なつたわけがございませう。それに要します経費
をここに八万五千円それから鋭切簡易水道につま

ましては計画人口二千四百を見て計画を進めたわけ
でございませう。しかしながら実際にでき上って見ますと
今年の夏季等につきましては夏の人口増大という
ようなことでその倍に近い人口増に補うだけの水が
不可能という段階にまでなりましたわけでもございませう
とりあえず地元と話し合ひまして見物橋の上流百三十
メートル程度の川止めをいたしましてこれで水の補いと
するといふような関係でやっておるわけでもございませう
これに要します請負員経費が二十三万六千円でございま
す。合わせてまして三十三万六千円とお願ひしようと思
うわけでもございませう。この財源につきましてはやはり
一般会計の繰り入れをお願いいたしたい。このように
考えるわけでもございませう。ただいままでの歳入歳出
総額につきましては二百九十四万四千円。これに今回

の三十三万六千円を追加いたしましたしまして合計歳入歳出とも三百三十二万円というふうにお願いたしました

いと考える次第でございます

議案オ八十八号上水道特別会計について御説明申し上げます歳出につきまして専業費の統務管理費そのうちの十九節負担金補助及び交付金におろまして三万円でございますがこれは日本水道協会千葉県支部の總會によります負担というものがきにわけでございますこれに三万円お願いしようというものでございませう水道管理費のうち十八節の備品購入費で三十五万円これは南糸水道におきまして自然流降にまつて貯水としておるわけでございますいろいろ加入者も逐次ふえてくるというふうな状況等もございませうして水中ポンプを購入いたしました

ポンプによる貯水をしていきたいこのように考えましてこの必要経費三十五万円をお願いしようとするものでございます

歳出合計三十八万でございますこの財源もやはり一般会計から繰り入れ三十八万円をお願いしようとするものでございます

現在までの総額が三百三十五万二千円でございます今回追加をお願いいたします三十八万円を加えて歳入歳出とも三百七十三万二千円といたしたいこのように考える次オでございますよろしくお願いいたします

議長(黒川佐太郎君)

以上で議案の説明を終わりました
本日の会議はこれにて延会いたします

明二十六日二十七日は議案審査のため休会といた

しまして次会は九月二十八日午前十時開会といた
します二十八日の議事は通告による一般質問を行
ないます

午後零時十五分

延会

本日、会議に付、大事件

一、開会

一、議長報告（出席説明者）

一、会議録署名議員の指名

一、会期の決定

一、議案第八十二号乃至第八十八号

出席議員

吉田 勇治郎

鈴木 正一郎

小柴 孝

館石 伝蔵

田中 祿郎

秋山 大三郎

田村 源治郎

望月 照正

安西 益男

辻 實

石井 正

黒川 佐太郎

菊井敏博 志村信作

小沢惠太郎 関 武夫

西村真次 藤田好治

保科忠夫 江田徳太郎

君塚喜三 中村省吾

島野茂樹郎 荻生田七郎

鈴木孝 山田教宇

安藤亀吉 安天徳順

三天節 高橋文治

山本昇 松本藤太郎

山口 康

